

インマヌエル中目黒キリスト教会

2015年3月22日聖日礼拝

「恵みの記憶～聖餐の心備え」

伝道者の書2章12-17節及び
12章1-7節

河村従彦牧師



聖書朗読

旧約聖書

伝道者の書2章12節-17節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版P.1012 ~ / 第三版P.1103

12 私は振り返って、知恵と、狂気と、愚かさとを見た。いったい、王の跡を継ぐ者も、すでになされた事をするのにすぎないではないか。

13 私は見た。光がやみにまさっているように、知恵は愚かさにもまさっていることを。

14 知恵ある者は、その頭に目があるが、愚かな者はやみの中を歩く。しかし、みな、同じ結末に行き着くことを私は知った。

- 15 私は心の中で言った。「私も愚かな者と同じ結末に行き着くのなら、それでは私の知恵は私に何の益になるうか。」私は心の中で語った。「これもまたむなしい」と。
- 16 事実、知恵ある者も愚かな者も、いつまでも記憶されることはない。日がたつと、いっさいは忘れられてしまう。知恵ある者も愚かな者とともに死んでいなくなる。
- 17 私は生きていることを憎んだ。日の下で行われるわざは、私にとってはわざわいだ。すべてはむなしく、風を追うようなものだから。

聖書朗読

旧約聖書

伝道者の書12章1節-7節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版P.1022 ~ / 第三版P.1114

- 1 あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。
わざわざの日は来ないうちに、また「何の喜びもない」と言う年月が近づく前に。
- 2 太陽と光、月と星が暗くなり、雨の後にまた雨雲がおおう前に。
- 3 その日には、家を守る者は震え、力のある男たちは身をかがめ、粉ひき女たちは少なくなつて仕事をやめ、窓からながめている女の目は暗くなる。
- 4 通りのとびらは閉ざされ、臼をひく音も低くなり、人は鳥の声に起き上がり、歌を歌う娘たちはみなうなだれる。

- 5 彼らはまた高い所を恐れ、道でおびえる。
アーモンドの花は咲き、いなごはのろのろ
歩き、ふうちょうぼくは花を開く。だが、人は
永遠の家へと歩いて行き、嘆く者たちが通り
を歩き回る。
- 6 こうしてついに、銀のひもは切れ、金の器は
打ち砕かれ、水がめは泉のかたわらで砕か
れ、滑車が井戸のそばでこわされる。
- 7 ちりはもとあった地に帰り、霊はこれを下さっ
た神に帰る。

説 教

「恵みの記憶～聖餐の備え」

伝道者の書2章12-17節及び
12章1-7節

河村従彦牧師



I わたしたちの存在の記憶

A 伝道者の書について

- 1 書名 コーヘレス 「集める」という意味
- 2 著者 ソロモン？
- 3 この書が語ろうとしていること
 - (1) 神さまは世界とその中のすべてのものをご自分の正しい計画の中で作り、保っておられるので、この世界は意味があるのではないか
 - (2) 自分の生がその計画の中でどのような意味を持っているかを全部知ることはできなくても、信仰によってそれを受け入れて生きる可能性があるのではないか

B 「覚える」ということば

- 1:11 記憶 ~ 過去は記憶に残らない
- 1:11 記憶 ~ //
- 2:16 記憶 ~ 知恵ある者も愚かな者も記憶
から消えてしまう
- 2:16 忘れる ~ //
- 5:20 覚える ~ 人生をくよくよ思う
- 8:10 忘れる ~ 正しい者が忘れ去られる
- 9:5 忘れる ~ 呼び名が忘れ去られる

B 「覚える」ということば

9:15 覚える ~ 貧しい知恵ある者も記憶に残らなかった

11:8 覚える ~ 闇の日があることを忘れてはいけない

12:1 覚える ~ 創造者を覚える

C 自分の人生の評価

- 1 自分の存在が人々の記憶から消え去ってしまうという恐れ
- 2 記憶からなかなか去りにくい人たち
- 3 わたしたちの存在も記憶されている

D もう一つ「覚える」べきこと 12:1

Ⅱ 記憶する風景 ルカ22:19

A 最後の晚餐

- 1 イエスさまの大切なひとと言
「記憶しなさい」
- 2 覚える必要

2 十字架を知った意味

イムヌエル讃美歌293番「とうときいずみあり」《試訳》

1節 インヌエルの水脈から流れ出る
血潮で満たされた泉があります
罪人たちはその泉の下に飛び込み
すべての罪のしみから自由にされます

日本語 その泉の下に飛び込み

英語 plunged beneath that flood

(血潮の下に飛び込む)であって.....

(血潮の中に飛び込む)でないのだろう

4節 あなたの流れる傷が与えるその泉を
信仰によって見たときからあがないの愛は
わたしの人生のテーマになりました
そしてそれは 地上の生涯を閉じるまで
続きます

《言い換え》

イエスさまについての記憶は
わたしの人生のテーマになりました
そしてそれを 地上の生涯が終わるまで
いつまでも覚えていきます